

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんげんだいこんぎょうげき 公益財団法人現代人形劇センター	団体ウェブサイトURL http://www.puppet.or.jp/
代表者職・氏名	理事長 塚田 千恵美	
制作団体所在地	〒 211-0035 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31	最寄り駅(バス停) 元住吉
電話番号	044-777-2228	
ふりがな 公演団体名	デフ・パペットシアター・ひとみ	団体ウェブサイトURL http://deaf.puppet.or.jp/
代表者職・氏名	代表 榎本 トオル	
公演団体所在地	〒 211-0035 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31	最寄り駅(バス停) 元住吉
制作団体 設立年月	1969年4月	
制作団体組織	役職員 代表理事:塚田千恵美 業務執行理事:松澤文字 理事:大杉豊、小川信夫、平野 英俊、北條秀衛、築瀬恵子 監事:桑野雄一郎	団体構成員及び加入条件等 理事:7名 評議員:7名 監事:1名 職員:10名
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担 当者を置く	本事業担当者名 吉村 衣世
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 菅原 真弓

<p>制作団体沿革</p>	<p>1969年 4月 文部省より財団法人設立認可、乙女文楽、和泉流狂言の稽古を開始 1970年 全国のからくり人形の本格調査開始 1973年 海外人形劇団招聘事業開始 1974年 出版事業開始 1975年 全国の伝統人形芝居の本格的調査開始、ヨーロッパ人形劇の実情調査開始 1978年 アジア人形劇の実情調査開始 1979年 国際児童年記念「人形劇カーニバル飯田」を提唱、事務局を担当 1980年 ろう者と聴者との協同による人形劇団デフ・パペットシアター・ひとみ 設立 1983年 デフ・パペットシアター・ひとみ初海外公演(チェコ)、 国際デフ・パントマイム・フェスティバル審査員特別賞受賞 2011年 4月 公益財団法人へ移行</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2011年度 12校で公演、ワークショップ 2012年度 11校で公演、ワークショップ 2013年度 25校で公演、ワークショップ 2014年度 20校で公演、ワークショップ 2015年度 20校で公演、ワークショップ 2016年度 17校で公演、ワークショップ 2017年度 19校で公演、ワークショップ 2018年度 24校で公演、ワークショップ 2019年度 16校で公演、ワークショップ 2020年度 8校で公演、ワークショップ 2021年度 10校で公演、ワークショップ</p>			
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>2011年度 28校で公演、ワークショップ 2012年度 15校で公演、ワークショップ 2013年度 3校で公演、ワークショップ 2014年度 6校で公演、ワークショップ 2015年度 14校で公演、ワークショップ 2016年度 4校で公演、ワークショップ 2017年度 16校で公演、ワークショップ 2018年度 15校で公演、ワークショップ 2019年度 13校で公演、ワークショップ</p> <p>*ろう学校またはろう者の児童が中心の支援学校を含みます。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/wl6QwyQUBEY</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	ろう者と聴者が協働でつくる、家族を描く人形劇			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『はこ/BOXES じいちゃんのオルゴール♪』 構成・演出:くすのき燕(人形芝居燕屋) 美術:太田拓美 音楽:田丸智也 やなせけいこ 照明:後藤義夫 音響プラン:森下勝史(人形劇団ひとみ座) マイム指導:チカパン スライド写真:古屋 均 舞台監督:やなせけいこ 演出助手:しのざきあき(人形劇団ひとみ座) 公演時間 80 分			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<p>戦前から現代へ、ある家族の三世代にわたる物語です。時代が進むにつれてテクノロジーが発達していくさまが描かれ、ときにその恩恵を受け、ときに翻弄されながらも、連綿と続く家族のきずなを描きます。本作品の大きな特徴はセリフなしで展開していくこと。箱を使った抽象的な舞台美術や、パントマイム、人形の動きをとおして、家族のきずなという普遍的なテーマが描かれます。この表現様式は、1980年の創立以来、デフ・パペットシアター・ひとみがろう者と聴者の協働による専門劇団として洗練させたものです。具体的な意味を持つセリフや説明がないため、観客の想像力はより強く刺激されます。</p> <p><あらすじ> 時代は戦前。一人の少年が幼なじみの少女に恋をしました。不器用なアプローチを繰り返す少年に、次第に少女も心を寄せ、やがて二人は結婚します。決め手は、少年が心をこめて贈った、美しい音色のオルゴール。</p>   <p>悲惨な戦争をなんとか生き延びた二人。やがて二人には、娘が生まれます。テレビ・洗濯機・冷蔵庫など、便利な電化製品の登場に、三人の家族はそろって大喜び。やがて娘は結婚。家族は二世代になりました。</p>   <p>ところが、そんな中、おとうさんが自動車事故で帰らぬ人になってしまいました…。やがて、若い夫婦には男の子が生まれます。家族は今や三世代です。その傍らで、時代はどんどん進んでいきます。パソコンで仕事に追われたり、テレビやゲームに時間を奪われたり。家族はどんどんバラバラになっていきます。そんな家族を見て、今やおばあちゃんになったあの少女が、一つの「はこ」を取り出します。それは、おじいちゃんとの恋、家族との幸せな時間の つまった、思い出のオルゴールでした。</p>  			

<p>演目選択理由</p>	<p>理由 1 表現方法 作中セリフが違われず、大小の箱と演者の動きのみで人間の感情や時代の変化を表現します。 観賞児童はセリフのない本作を観賞することで、想像力を養い豊かな人生を歩む力を身につけることを目指して行きます。</p> <p>理由 2：作品のテーマ 家族を描くことが作品のテーマです。戦争を経験したおじいちゃんからその孫まで3世帯に渡る家族が作中に登場し、その世代の生活が描かれます。 作品の観賞後、児童は両親や祖父母と作中に描かれている時代について話をすることもあるでしょう。 そういった家族でのコミュニケーションが作中でも重要な要素になっており、コミュニティの繋がりが希薄になっている現代にこそ必要なテーマだと考えております。</p>		
<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>公演の前に段ボールを使ったワークショップを行います。 ワークショップでは、子どもたちがいくつかのグループに分かれて段ボールを何かに見立てて表現します。 例えば段ボールをテレビに見立ててグループでそれを見ることといったことが考えられます。 作品中に出てくるはこを様々なものに見立てて表現をすることを、そのワークショップで子どもたちが疑似体験ができます。 その上で公演の前に子ども達のグループがそれぞれ自分たちが段ボールを何に見立てたかを発表する機会も作ります。 子どもたちの想像力や表現力を養い、公演の前の良い導入になると考えられます。</p>		
<p>出演者</p>	<p>デフ・パペットシアター・ひとみ 足立沙樹、榎本トオル、鈴木文、やなせけいこ 他2名</p>		
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者： 6 名 スタッフ： 3 名 合 計： 9 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量： 4 t 車 長： 8.8 m 台 数： 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		有		前日仕込み所要時間		4時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	8:00	12:00		13:30		15:10	17:30	

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					19日	
	11月	12月	1月	計	21日	
	2日					

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	40人
		鑑賞人数目安	300人



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)



※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	40人まで(6～7人ずつ、6グループに分かれて実施)
ワークショップ 実施形態及び内容	<p><テーマ> 箱からイメージをふくらませよう!</p> <p><道具> ・学校でご用意いただくもの:ホワイトボード(黒板)、ビデオカメラ(作品撮影用) ・参加する生徒にお持ちいただくもの:1-2個小さな箱(お菓子の箱など) ・劇団が持参するもの:大小数種類のダンボール箱</p> <p><概要> 6名前後で構成されたチームごとに、箱を「何か」に見立てます。 物の形を作るのではなく、物の機能や特性を考えて、大小いろいろな箱を使って、携帯電話や動物など、なにかに見立てて表現します。それをグループの中で皆で相談して進めます。最後に各グループで発表し、表現が伝わるか、また伝わらない場合は何が問題なのかを考えて、次の表現に生かします。</p> <p><ワークショップの進行> 1、アイスブレーキング(心と体をほぐすための準備運動) 講師陣の自己紹介と手話の紹介をする。その後、手話表現の動きをもとにした身体ゲームをおこなう。次に生徒たちが自由に歩きながら、アイコンタクト&タッチ(目と目が合った者同士がタッチする)を行う。このゲームを通じて、気分をほぐしながら自分の気持ちを伝える事や、他者の表現を読み取る力を養う。 2、デモンストレーション1 デフ・パペットシアター・ひとみのメンバーによる実演。どんなふうに表示すればいいかを参考にしてもらう。 3、製作① チーム(学校での班分けでも可)に分かれて作品の製作を行う。 1回目は、1個の箱を使うものを10個以上考える。その中から1つを皆の前で発表し、作品を見た生徒たちは感想を述べる。 4、デモンストレーション2 デフ・パペットシアター・ひとみのメンバーによる、複数の箱を使った実演。 5、製作② 複数の箱を使って何かを表現するものを複数考える。その中から1つを皆の前で発表し、作品を見た生徒は感想や意見を述べる。 6、製作③ 製作1,2を踏まえて、本公演の際に発表する作品を各チーム1つずつ決める。 7、公演前稽古 本公演日は発表前に1時限分程度、稽古する</p>		
ワークショップの ねらい	<p>ワークショップを通じて、児童達に想像力を養うきっかけを作りたいです。 児童たちは段ボールを使い、その段ボールをなにに見立てることができるかを想像します。子どもたちは段ボールを様々なものに見立てるうちに、物事を多面的に見て表現する力を身に着けることができます。 その上で公演を鑑賞することで、舞台に広がるはこが何を表しているのかを児童達も想像しやすくなり、作品世界へ入り込みやすくなる効果を狙います。 もう一つの意図として、ワークショップを通じて児童と聞こえないアーティストの交流をする狙いがあります。デフ・パペットシアター・ひとみは耳の聞こえないろう者と一緒に活動をしている劇団であるため、子ども達はろう者のアーティストとろう者と共に活動をしているアーティストと触れ合うことで、社会の多様性や共感性を学ぶきっかけになることを考えております。</p> <p>新型コロナウイルスまん延状況を鑑みながら、三蜜を避ける対策などを綿密にしながらい進んでいきます。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等			

『はこ／BOXES じいちゃんのオルゴール』』

出演者

やなせ けいこ (築瀬 恵子)

榎本 トオル (藤野 透)

鈴木文

足立沙樹

他 2 名

計 6 名

() は本名

スタッフ

音響スタッフ 1 名

照明スタッフ 1 名

トラックドライバー 1 名

計 3 名

全合計 9 名